

「製塩土器からみた播磨」

瀬戸内海に面する播磨において、初めて製塩土器に着目して網羅的な検討をおこなう。製塩土器の集成作業を通じて、塩の流通とその歴史的背景を多角的に考える。

- ① どのような時期にどのような形態の製塩土器が出土しているか
- ② 製塩土器がどこから、どのようなにもたらされたか
- ③ 製塩土器が出土する遺跡の性格はどうか。

日 程：2020年2月16日（日）（9：30開場）
 会 場：姫路市教育会館（兵庫県姫路市飾磨区清水2丁目128）
 参 加：1000円（資料代込み、開催実費）自由参加
 開 会：10：00（趣旨説明等）

【報告】

- 10：10～「西播磨」 荒木 幸治（赤穂市教育委員会）
 - 10：45～「中播磨」 多賀 茂治（兵庫県まちづくり技術センター）
 - 11：20～「北播磨」 小川 真理子（加西市教育委員会）
 - 11：55～「東播磨」 平尾 英希（加古川市教育委員会）
- 星休憩

【基調講演】

13：30～「土器製塩の展開—瀬戸内海沿岸地帯を中心に—」 大久保 徹也（徳島文理大学）
 14：50～小休憩

【シンポジウム】

15：10～「製塩土器の流通からみた播磨の生業」
 （報告者5名＋会場参加者、聞き手：大久保 徹也 氏）
 16：40終了予定

※当日資料集は、講演・報告資料に加え、初めて播磨の弥生時代～古代の製塩土器を集成した一冊になっています。

待望の新作！当日販売開始

第20回記録集『土器からみた3世紀の播磨』（予価1000円）

古墳出現期に播磨で確認された他地域の土器は何を語るか？研究会当日の講演・報告の書き下ろしとシンポジウムの記録です。

第20回播磨考古学研究会の記録

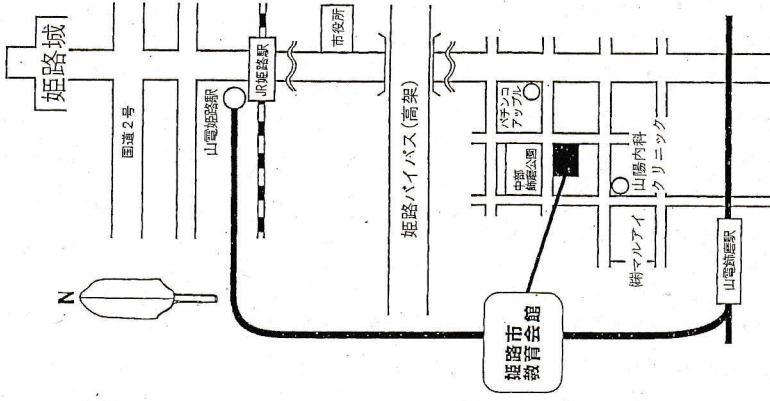
土器からみた3世紀の播磨

第20回記録集

印刷中

当日販売開始！

1. 土器製造の開始と社会的環境
2. 弥生時代後期(前・中)の展開
3. 後期弥生～古墳時代前期前半段階における土器製造技術の広域波及
4. 古墳時代前期後半～
5. 古墳時代中期前半～中期後半
6. 古墳時代後期 播磨産地点の配置と大塚南半～紀伊半島の土器製造関係
7. 土器製造の終焉



山陽電鉄飾磨駅下車、東口から北東へ徒歩約10分。駐車場は狭小です。公共交通機関をご利用ください。

第18回『武器からみた古墳時代の播磨』1000円。在庫11冊
 第19回『須恵器生産からみた播磨』1000円。在庫41冊

お問い合わせ

第21回播磨考古学研究会実行委員会
 (事務局：090-3675-5125)